

2010ほしぞら合宿当での夜空と見どころ

ジャコビニ流星群

りゅう座の頭あたりに放射点を持つりゅう座流星群（ジャコビニ流星群）が、10月9日の8時ごろに活動のピークになると予想されている。13年ごとに大出現することがあり、かつては大流星雨を降らせたこともあるが、近年の活動は比較的落ち着いている。月明かりがない最高の条件で観察できるので、13年周期にあたる来年に期待しながら夜空を眺めてみよう。（アストロアーツより引用）

変光星(ミラとアルゴル)

【ミラ】

くじら座の星のミラは、くじら座首の所に有ります。変光星の種類としては、星の大きさ自体が変化する長周期脈動変光星です。変光範囲は2.0等級から10.1等級で、数ヶ月は肉眼で簡単に見えますが、半年以上は望遠鏡でも探し難い極端な変化をします。この様に見えたり見えなかったりすることから「不思議な物」と言う意味のミラと言う名前が付けられました。変光周期は332日だから毎年一月ぐらい極大期が早くなり、今年の極大期は10/18日だから明るいミラが見えます。合宿の時期が変わらないなら、数年で見えなくなります。特に今年は極大期間近で2.1等級と明るいミラが見えます。

見つけ方はベガスの四辺形が天頂付近の場合、南を向いて右上(北西)と左下(南東)の星を結んで左下に延長していくと明るい2等星が有るので、その星がミラです。

【アルゴル】

ペルセウス座β星のアルゴルは、ペルセウスが持っているメデューサの首の所に有ります。アルゴルは「悪魔」と言う意味があり、これはペルセウスの神話と星座の中の位置に寄る物と言われています。アルゴルは食変光星で、連星系の近距離に有る二つの太陽がお互いを隠し合う「食」の時間だけ減光します。だから変光周期はお互いの公転周期であり、アルゴルの2.9日の様に短い周期で変光する物が大半です。通常は2.1等級ですが、食の間だけ5時間かけて3.5等級迄ゆっくり暗くなり、再び5時間かけて明るくなります。片方の太陽は出ているので通常の晴れた夜なら見えなくなる事は有りません。

これも10日の明け方(北西の空)が見頃ですが、1時間置きなど継続して見ないと違いが判らないと思います。極小が05:02だから、天文薄明が始まったぐらいです。だいたい5時間ぐらいで極小になるので、夜中の0時頃から少しづつ暗くなります。

アンドロメダ座のγ星(アルマク2.2星)、ペルセウス座のα星(アルゲニブ1.8等星)、ペルセウス座ρ星(アルゴルから2°離れた3.3等星)との比較で判断出来ます。

最初はアルゲニブとアルマクの間ぐらいの明るさが、アルマクよりかなり暗くなり、アルゴルの隣に有る3等星のρ星と同じぐらいになります。

アルゲニブとの比較だと、北斗七星の四番目に有る暗い星とその他の北斗七星の星ぐらいの光度差になります。

2010年10月8日22時



残念ながら、増光期は薄明が始まってしまい見えなくなります。減光期だけでも見える時間帯が有るのはついています。

ベガスの四辺形を北斗七星に見立てて、北側の辺を東に延ばすとアンドロメダのβ星、γ星(アルマク)と続き、最後は北斗七星と同じ様に少し南に曲げると2等星のアルゴルです。

また、柄を直線に延ばすと2等星のアルゲニブ(ミルファク)に着きます

文責：ほしぞらスタッフ 高木 智

今、プラネタリウムの番組でも紹介されていますのでみなさんもぜひ見つけてください。